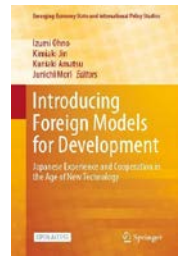


開発を学ぶ、伝える

～日本の産業開発・開発協力の経験と翻訳的適応アプローチ～

JICA 緒方貞子平和開発研究所は、内外の政策発信のために書籍『[Introducing Foreign Models for Development: Japanese Experience and Cooperation in the Age of New Technology](#)』(Springer, 2024)を出版しました。本ウェビナーでは、本書籍の編者が書物の概要を紹介し、アフリカでのカイゼンの展開やアジアの産業人材育成支援などの日本による具体的な実践例を報告します。さらには、「開発を学ぶ、伝える」方法につき、参加者の皆様とともに考え、SDGs やデジタル化といった時代的文脈の中で、日本の開発協力の在り方について議論する場になれば幸いです。



「開発を学ぶ、伝える」取り組みは、キャッチアップをめざす開発途上国および開発協力に携わるドナーの双方にとって、古くて新しい課題です。技術革新の進展により、開発途上国による外国知識へのアクセスは容易になり、また自らの開発経験を積極的に発信するドナーや新興国も増えています。しかし、開発途上国の政府と民間が協働して、世界の「ベストプラクティス」から自国に有効な知識を選び、自国に適したモデルを構築するための方法論は、まだ十分に解明されていません。

同書籍はまさに、開発途上国が外国からいかに効果的に学び、それを自国の開発政策に適用すべきかに焦点を当てた研究の成果をまとめたものです。そこでは「翻訳的適応」という概念を中心に据えています。また理論に加え、日本自身の開発経験や長年の開発協力を通じて、わが国が培ってきた視点を事例分析で明らかにし、開発途上国の「翻訳的適応」を側面支援するとはどういうことかについて考察しています。

日時：2024年3月26日(火) 16:30 - 18:00(日本時間)

場所：Zoomによるオンライン形式 言語：日本語(通訳なし)

参加方法：参加ご希望の方は、下記リンクよりご登録をお願いいたします。

https://grips-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_yBuK6JWgSbeMBhWDZfiagg

(※) お名前はイニシャルやニックネームではなく、本名でのご登録をお願いいたします。ご登録いただいた個人情報は、当フォーラムのイベントや勉強会の案内の送付以外には使用いたしません。

プログラム:

16:30 - 16:55 オープニングと書籍紹介

大野泉 (GRIPS 教授／JICA 緒方研究所 シニア・リサーチ・アドバイザー)

<ビデオメッセージ> ゲタフン・タデッセ・メコネン (認定主席カイゼンコンサルタント、エチオピア)

16:55 - 17:10 事例1 アフリカにカイゼンを伝える: 日本の協力と翻訳的適応の実践(仮)

神公明 (JICA 南アフリカ共和国品質生産性向上プロジェクト チーフアドバイザー)

17:10 - 17:25 事例2 ベトナムの技術教育における産学連携モデルの学習と日本の協力(仮)

森純一 (前 ILO Skills for Prosperity Programme in Malaysia チーフ・テクニカル・アドバイザー)

17:25 - 17:55 Q&A モデレータ: 大野泉

17:55 - 18:00 クロージング 山田実 (JICA 管理部次長／前 JICA 緒方研究所上席研究員)

(※) 本書は JICA 緒方研究所の研究プロジェクト「[日本の産業開発と開発協力の経験に関する研究: 翻訳的適応プロセスの分析](#)」の成果をまとめたもので、開発協力の実務と研究に豊富な経験をもつ 10 人が執筆しています。オープンアクセス書籍なので、だれでも自由にダウンロードできます。<https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-99-4238-1>